

辺土名小学校プチ校内研修

- (1) 単元名：くりかえしのあるお話をつくろう 【読む】
 教材：「きつねの おきゃくさま」 (教育出版)
- (2) 本時の目標：きつねの気持ちを考え、友達と考えを交流する

辺土名小学校ミニ校内研(プチ研)。こちらでも今年度新任の教師が挑戦である1学期も終盤を迎え、国頭村の各学校で校内研修による授業研究会が頻繁に進められている。正式な主事招聘の授業研究会とはちがい、ほとんどは授業者が自ら手をあげ、その時間に空きのある先生が参観し、放課後ビデオや写真でリフレクションするというスタイルのプチ研である。K先生にとって何もかもがこれまでとちがい斬新な校内研の運営に不安が募る教室公開であることは間違いない。



しかし、この時点でK先生は一つの大きな壁をクリアしたことになる。なにか分かりますか?…それは彼自身のアクティブラーニングが実践されたことです。「わらいこと」、「教えられていないこと」に主体的に取り組む姿。この教師の姿がまさにアクティブなんです。

☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。



同僚の授業公開に数名の先生が参観に来てくれた。なんといっても初めてがつく公開授業である。授業者が緊張しないと言えばそれは嘘。参観の心⇒授業公開者に感謝の念を持ち、謙虚に参観させていただきます。辺土名小は1学年1クラスで6学級あるが(支援学級1)、6クラスのうちの3人が新任の先生で、さらに2人の先生が育休補充の定臨の先生である。幸い定臨の先生が今年度で2年目なのがほっとする。ここ最近辺土名小は厳しい人事状況にある。年度当初4月の校内研修は毎年スタート地点である。今年は今年と同僚でまた1から始めます。くりかえし、くりかえす・・・よちよちゆっくり向かっていくしかないのです。大切なことは教師が絶対にあきらめてはいけないということだけです。これまでの先生方と子ども達が積み上げてきた「学び合い・支え合い」を絶やさないために。

[音読する] 元気よく読んでいる。読みもお話の終末になるころは、子ども達の声がなんとなくそろっている。



物語の読みで大切にすることは群読のようにそろえて読むことが目的ではない「味わいながら読む」ということである。だから、読み手一人ひとりが自分のペースで読むことが大切にされなければならない。たどたどしい読みをする子どもほど、文字に触れていることを分かてほしい。右の写真、大型教科書であるが工夫された提示の仕方に感心した。さて、なぜ大型教科書を使うかである。常にその目的や意義を理解して使ってほしい。もしかしたら授業者も初めての大型教科書だったかもしれない

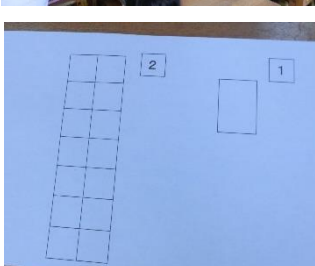


ぜひ、校内研修や同僚と一緒にその目的や意義の理論研を重ねてほしい。授業者自身よりも辺土名小の校内研修の共通実践として、大型教科書活用の目的は同じように理解されなければならない。…頑張れ研究主任!

[ワークシート①] 子ども達に最初の学びのネタが下ろされた。



- ① 記号で答えるところだが、最初の解答者は「きつね」と文字で書いてしまった。教室でブツブツつぶやきが起る。すぐに㊦と書きかえられた。
 …「教室は間違ところだ」仲間の間違いから多くのことを学ばんです。教師が訂正するのではなく、じっくり仲間にあずけた授業者の心遣いである。



- ② 文字まずに合わせて答えを書く。
 答えるのに必要な言葉だけを教科書から書き抜く。「先生が間違ってるんじゃない?」子どもの声が聞こえる。ぜひ取り上げたかった。「先生のどこが間違っているの?」。子どもの間違いや勘違いにも必ず『理』がある。そこから解決の突破口が見えてくることも多々ある。さて、この2問を解決してくのに「子どもの学び」はどうであったかが、辺土名小の授業視点である。ここに授業公開者の価値があるのです。…頑張れ研究主任!

ワークシート①をやる。写真①、女の子が積極的に男の子に声をかける。写真②、答えを（きつね）と書いてしまう。写真③、女の子の解答を見て「？」の男の子、後ろの女の子に確かめて、「おかしいじゃん？」。写真④、答えを（㊦）に書き換えてご満悦な男の子。さて、どちらが恩恵を受けたでしょう。



写真①



写真②



写真③



写真④

③ 問い：きつねがはずかしそうにわらってしんだのはなぜでしょう。

この物語のクライマックスが①「きつねはどうして おおかみと戦ったのでしょうか。」②「どうしてわらって死んだの？」子ども達の自由な想像が思考を広げる。仲間の様々な読みが子ども各々の学びになる

● 自分が育てたアヒル達をおおかみに「食べられなくなかった」から・・・



さらに「食べられなくなかった理由」がわかる。

●1 せっかく育てたのに…面白くないから。くやしいから。

●2 最初は食べるつもり育てたが、愛情がわいてきて、おおかみから「守る」ために戦った。

●1～2の子ども達の『理』をしっかりきいてあげることが大切。



ここが「学び」を広げる・深めるである。自分の思ったことだけで結論づけて「そうですね」で終わったのでは学びが成立したとは言えない。自分と違う他者の考えを聴いて学び、新たな自分なりの解釈やイメージを広げたり深めたりすることが大切になるのです。そのためにも授業においては「分からないこと」や「なぜ？」を互いに訊き合う時間の設定が必然となる。今日の授業でも●1の子が発言した。どう広げたり、つなげたりするかが教師の授業研究の方向となる。今後のK先生の経験の積み重ねが大切になってくる。「問の準備」「つなぐ」「広げる」「学びの成立」について共通理解を…頑張り研究主任！

[みんなのテーマ] 3枚の写真の共通点はなんですか？ … 大人の近くで落ち着くということ。



写真



写真⑤、教頭先生と「わらったりゆう」について考える男の子。真剣に考える眼差しを持っているのです。自分も参加したいのです。ただ、うまく自分をコントロールできるすべを持たないのです。

この子たちが、一番先生の愛情（関わり）を要求しています。結論、今の授業では厳しいでしょう。だから日常（授業以外：休み時間・給食・清掃・朝・帰り）のかかわり方が大切になってくるのです。「日常から授業へ」もっていく。「ちゃんとできるようになったら優しくしてあげる。」はこの子たちには全く通じないことはすでに経験されていることと思います。教師が面倒くさいと思った瞬間、この子達の愛情欲求のアプローチはさらにエスカレートしていきます。担任一人のテーマではありません校内すべての先生方で日常の関わり方を共通理解・実践されてください。…頑張り教頭先生！

男の子の発言：「K先生、〇〇さんにはやさしんだよなあ〜」この子がいかに自分もそうでありたい気持ちがあるか。この言葉に気づく教師とそうでない教師は・・・何が違うのでしょうか。

辺土名小すべての先生方へ「文学教材を味わう」 校内研で確かめましょう・・・頑張り研究主任

[文学の読みを深めるために【3つの対話】]

1. テキストとの対話 ⇒ 物語に入っているか。（自分なりのイメージを描くことができているか）
2. 仲間との対話 ⇒ 仲間との対話から学ぶ。（他者の考えを否定せず多様な考えを受け入れる。）
3. 自己との対話 ⇒ 対話から変容があるか。（「そうなんだ」「なるほど」「いいね」「なんで」）

子ども達の学校生活の8割は「授業」です。その授業が辛いものであったり、つまらなさを感じるものであっては、子ども達に「安心」や「居心地のよさ」を感じてもらうことは厳しいものになります。逆にどんなに弱い子どもでも授業に自己存在感を満たしてくれる受け入れや「支える」には安心して「居心地のよさ」を与えてくれます。素直に子ども達に訊いてみましょう。「この教室は皆さんにとって居心地はいいですか？」すべての先生方の課題としましょう。



K先生授業公開ありがとうございました。発想を変えましょう。「この教室には教師の学びのネタがいっぱいある。」写真の女の子の発言はみんなが心で聴けていましたよ。…なぜ 国頭学びの会ゆい